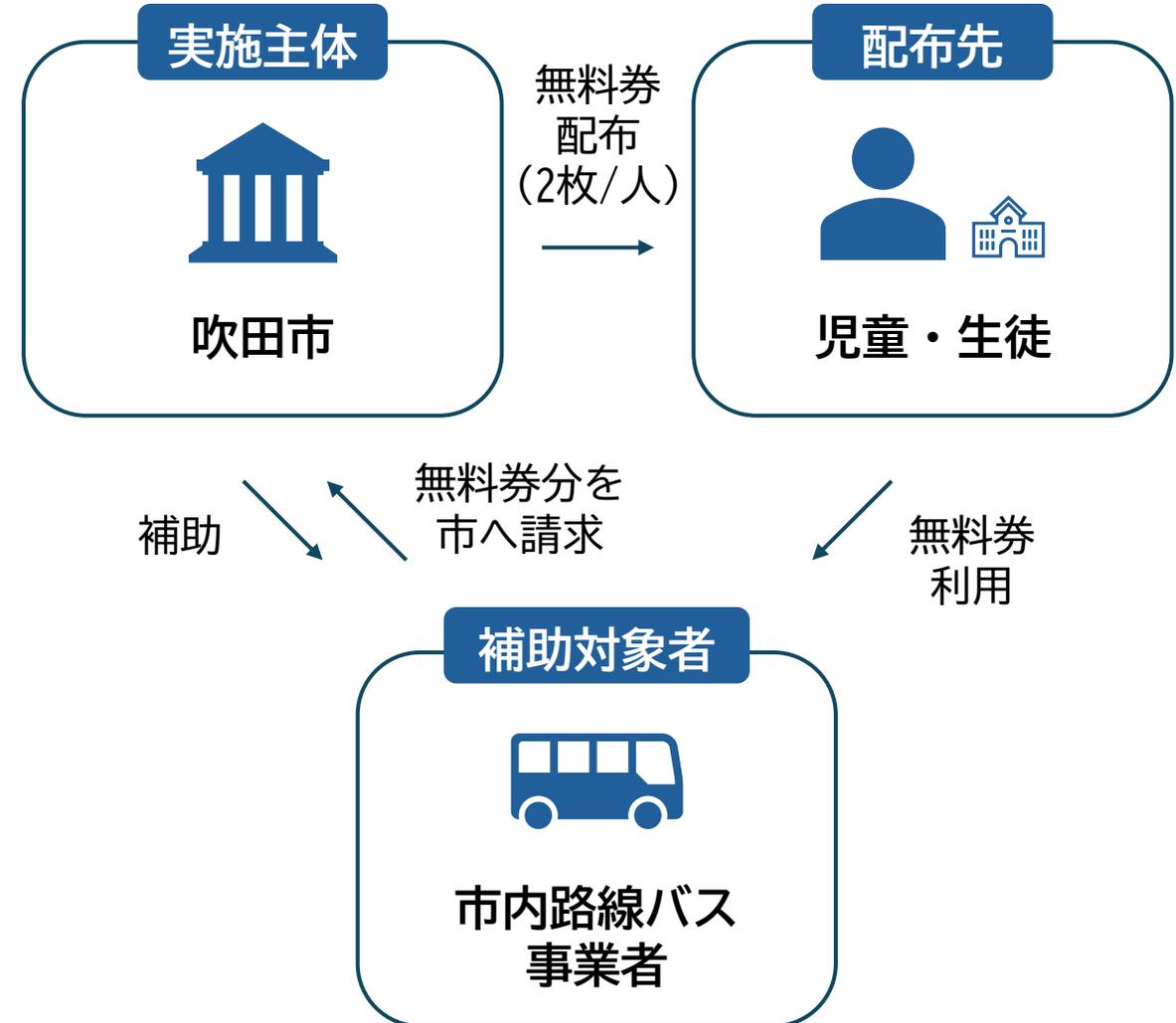


**アンケート調査**  
**(小・中学生路線バス無料乗車体験事業)**  
**結果報告**

# 事業概要について

項目	内容
計画との関連	事業3 利用サービスの提案
事業の目的	路線バス利用のきっかけづくり、 路線バスの将来需要拡大
事業内容	児童・生徒1人あたり2枚の無料乗車券を配布し、 利用されたバス運賃分を市がバス事業者へ補助
無料乗車券 配布先	吹田市立小・中学校に在籍する児童・生徒 ※市立小中学校
事業期間	令和4年度～令和9年3月末（事業予定） ※年度おきに夏休み初日から冬休み末日の有効期間

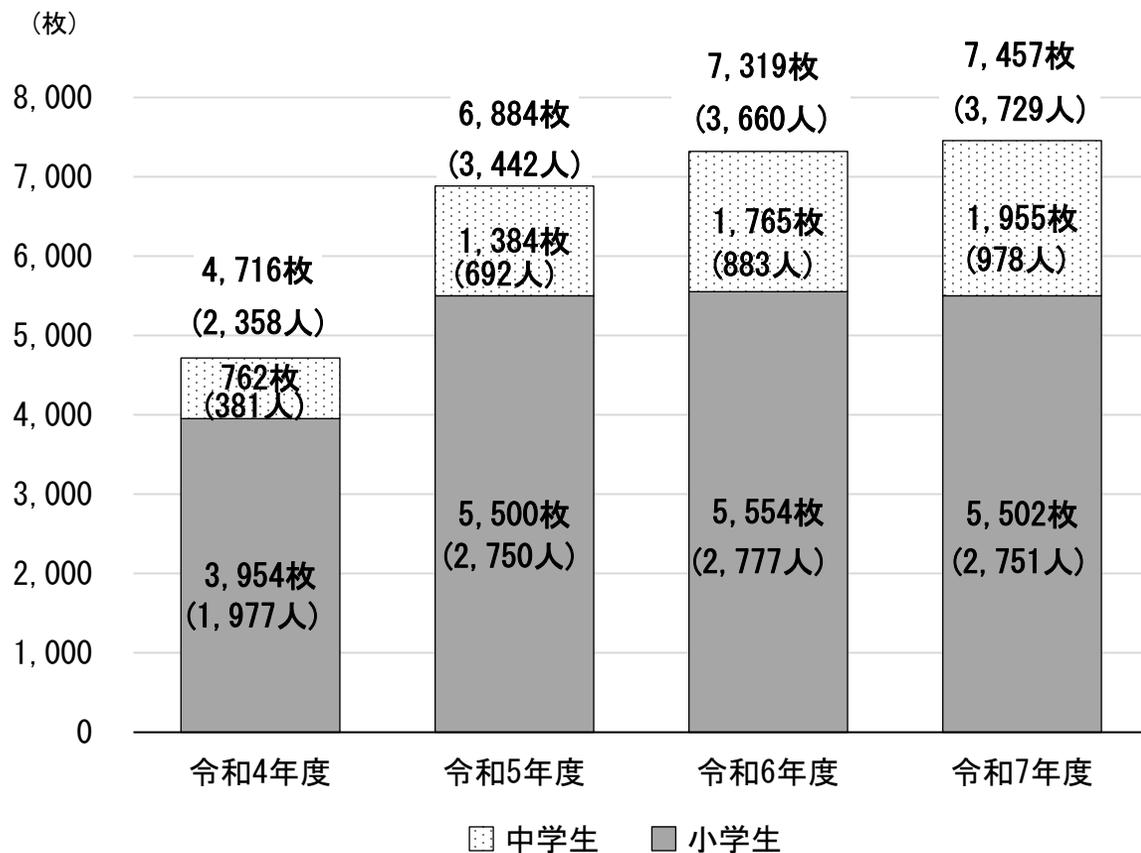


# 事業の利用実績

## 利用実績（乗車券回収状況）

乗車券の利用枚数・利用率は年度を追うごとに上昇しています。

令和7年度の利用率は12.2%。小学生の利用率が中学生より高い傾向が一貫しています。



表：小・中学校別の利用割合

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学生	9.2%	12.7%	13.0%	12.9%
中学生	3.8%	7.5%	9.5%	10.5%
合計	7.5%	11.1%	11.9%	12.2%

【参考】令和7年度 配布枚数  
小学生 21,319枚  
中学生 9,352枚

# アンケート調査方法・調査項目

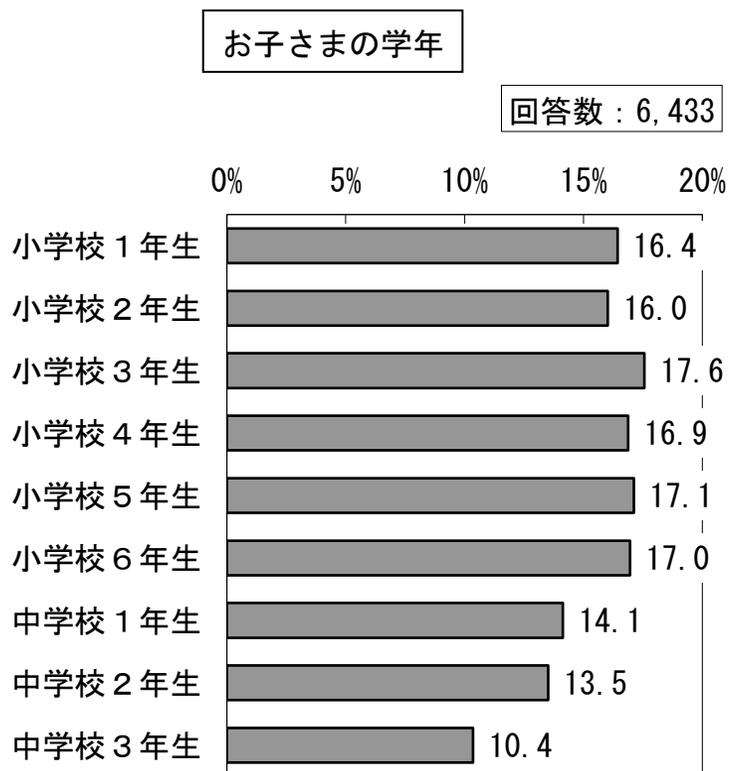
項目	内容
実施方法	・学校の一斉連絡システムを活用したWebアンケート
対象者	・吹田市立小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者（一斉連絡システム登録者）
実施方法	・webアンケート
調査実施時期	・令和8年1月15日 ～ 令和8年1月31日
配布数	・33,635アドレス
回収数	・6,433票（19.1%）

問	項目	目的
問1	お子さまの学年	回答者属性の把握
問2	無料乗車券の利用有無	—
問3	利用時点の学年	
問4	利用したきっかけ・理由	利用実態把握と効果確認のため
問5	利用を通じた変化	
問6	利用しなかった理由	事業の改善点把握のため
問7	無料乗車券の配布希望	
問8	配布希望の理由	事業の評価のため
問9	事業へのご意見	事業の改善点把握のため

# アンケート調査の結果概要

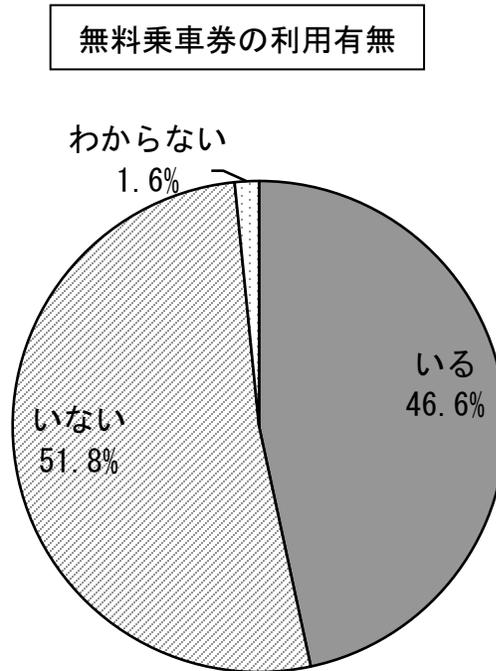
## 問1. お子さまの学年

「小学校3年生」が17.6%で最も多く、  
次いで「小学校5年生」が17.1%、  
「小学校6年生」が17.0%。



## 問2. 無料乗車券の利用有無

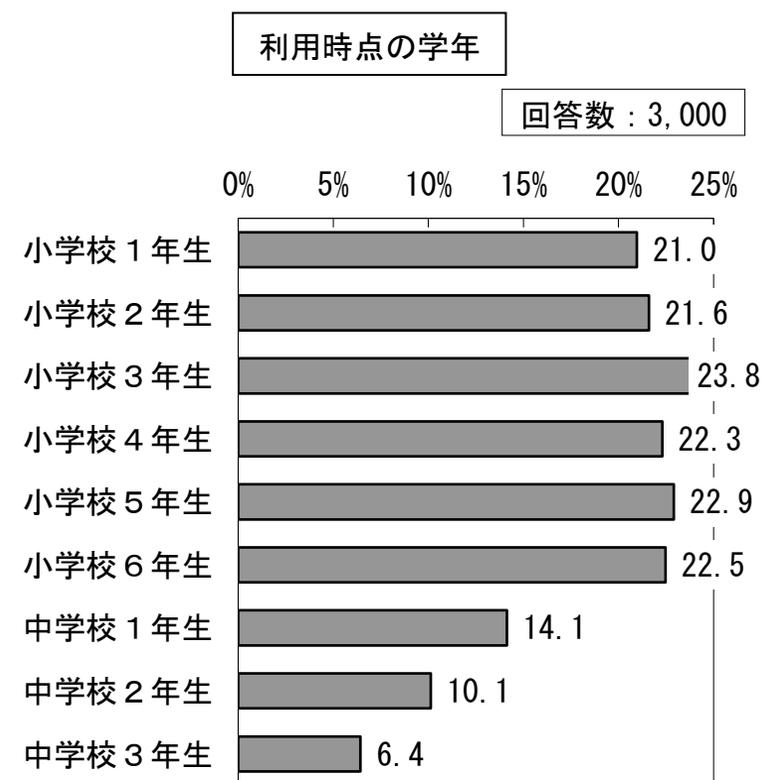
無料乗車券の利用有が46.6%。



回答数：6,433

## 問3. 利用時点の学年

「小学校3年生」が23.8%と最も多く、  
次いで「小学校5年生」が22.9%、  
「小学校6年生」が22.5%。



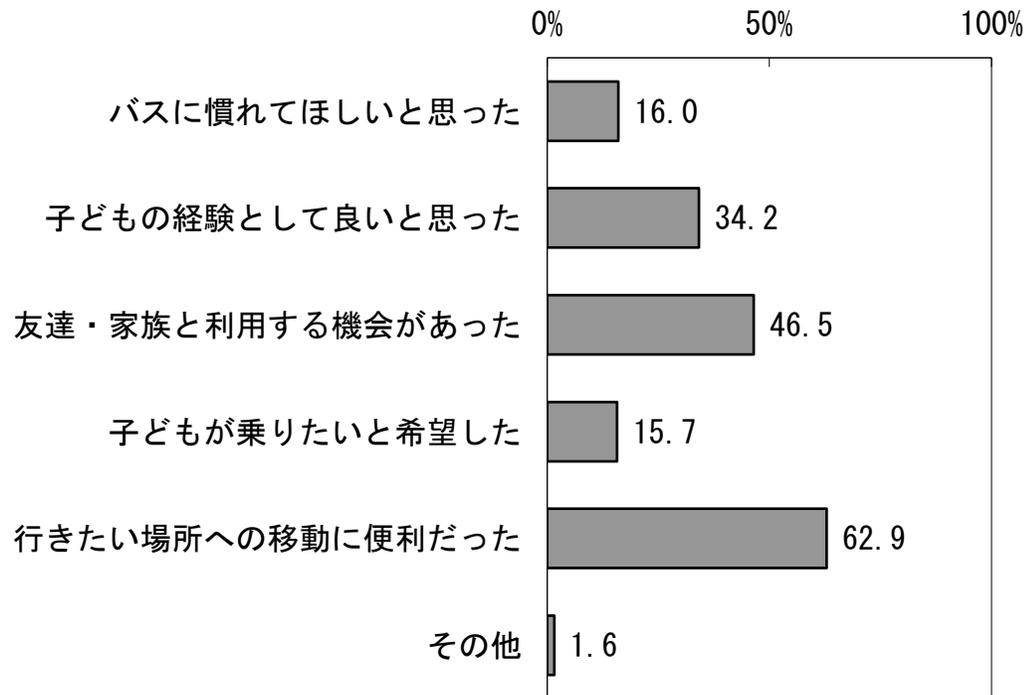
# アンケート調査の結果概要

## 問4. 無料乗車券を利用したきっかけ・理由

「行きたい場所への移動に便利だった」が62.9%と最も多く、次いで「友達・家族と利用する機会があった」が46.5%、「子どもの経験として良いと思った」が34.2%。「子どもの経験として良いと思った」は低学年で高く、学年が上がるほど減少。一方で、「行きたい場所への移動に便利だった」は低学年ほど割合が低く、高学年で高い。

無料乗車券を利用したきっかけ・理由

回答数：3,000



学年×無料乗車券を利用したきっかけ・理由

回答数

学年	バスに慣れてほしいと思った	子どもの経験として良いと思った	友達・家族と利用する機会があった	子どもが乗りたいと希望した	行きたい場所への移動に便利だった	その他	回答数
全体	9	19	26	9	36	1	5,304
小学校1年生	10	21	25	11	31	0	1,204
小学校2年生	10	22	24	11	32	0	1,320
小学校3年生	10	21	26	11	32	0	1,406
小学校4年生	10	21	24	10	34	1	1,329
小学校5年生	9	20	25	9	36	1	1,230
小学校6年生	8	17	28	7	39	1	1,164
中学校1年生	8	17	29	6	39	2	746
中学校2年生	9	14	28	5	42	2	514
中学校3年生	8	12	29	5	43	3	308

- バスに慣れてほしいと思った
- 子どもの経験として良いと思った
- ▨ 友達・家族と利用する機会があった
- 子どもが乗りたいと希望した
- ▨ 行きたい場所への移動に便利だった
- ▨ その他

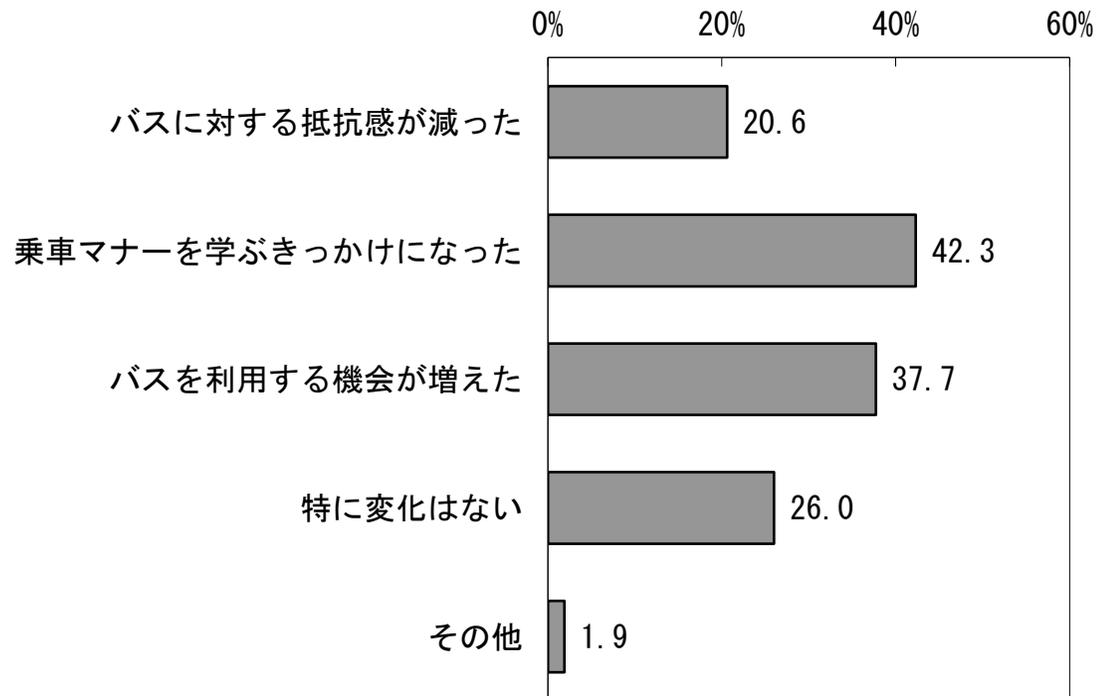
# アンケート調査の結果概要

## 問5. 無料乗車券の利用を通じた変化

「乗車マナーを学ぶきっかけになった」が最も多く42.3%、次いで「バスを利用する機会が増えた」が37.7%、「特に変化はない」が26.0%。「乗車マナーを学ぶきっかけになった」は低学年で高く、学年が上がるほど減少。

無料乗車券の利用を通じた変化

回答数：3,000



学年×無料乗車券の利用を通じた変化

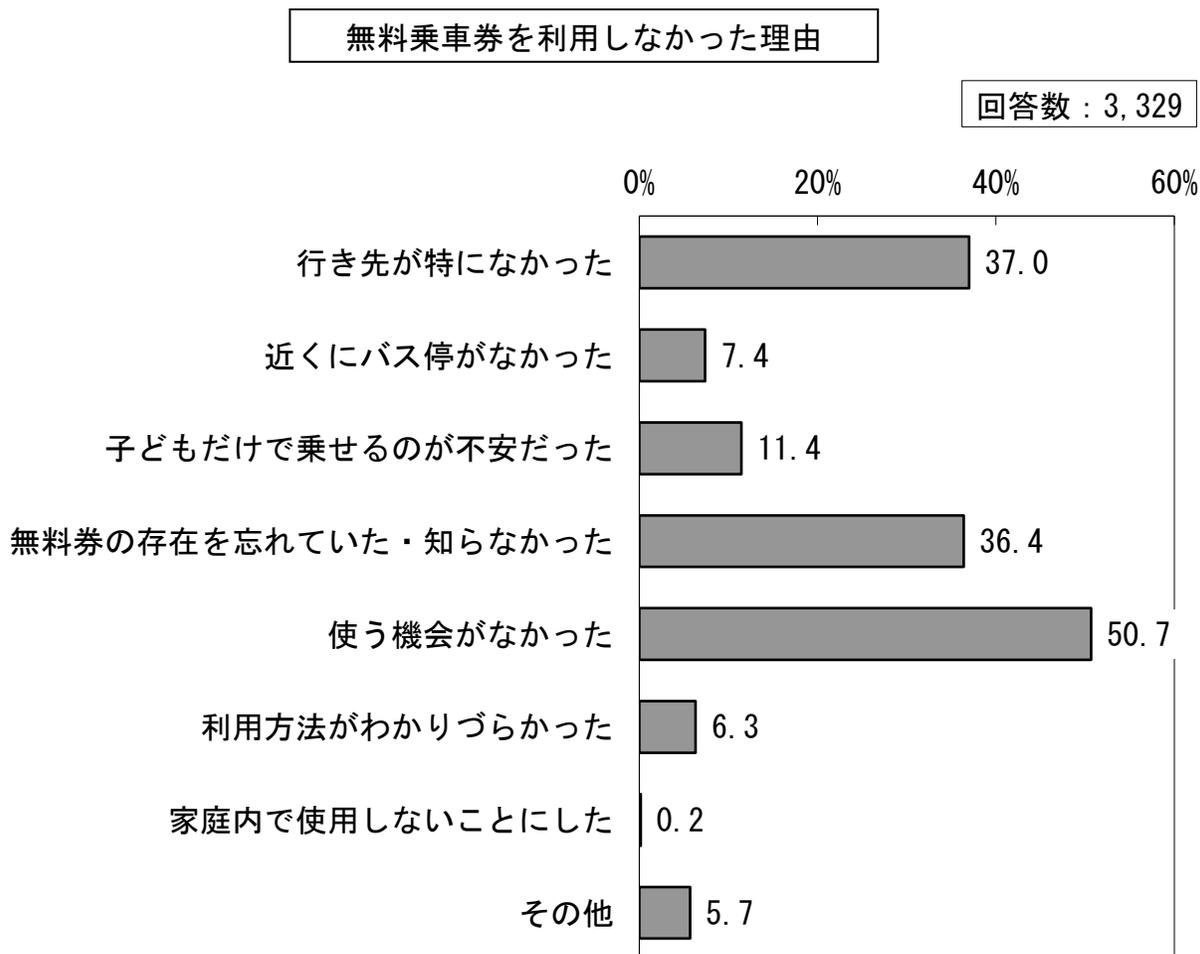
学年	バスに対する抵抗感が減った	乗車マナーを学ぶきっかけになった	バスを利用する機会が増えた	特に変化はない	回答数
全体	16	33	29	20	3,856
小学校1年生	15	37	30	17	831
小学校2年生	15	36	31	16	880
小学校3年生	16	37	31	15	972
小学校4年生	18	34	31	15	897
小学校5年生	17	32	30	19	916
小学校6年生	17	29	32	20	868
中学校1年生	19	29	30	21	544
中学校2年生	18	26	33	21	386
中学校3年生	18	24	32	24	241

- バスに対する抵抗感が減った
- 乗車マナーを学ぶきっかけになった
- ▨ バスを利用する機会が増えた
- 特に変化はない

# アンケート調査の結果概要

## 問6. 無料乗車券を利用しなかった理由

「使う機会がなかった」が50.7%と最も多く、次いで「行き先が特になかった」が37.0%、「無料券の存在を忘れていた・知らなかった」が36.4%。

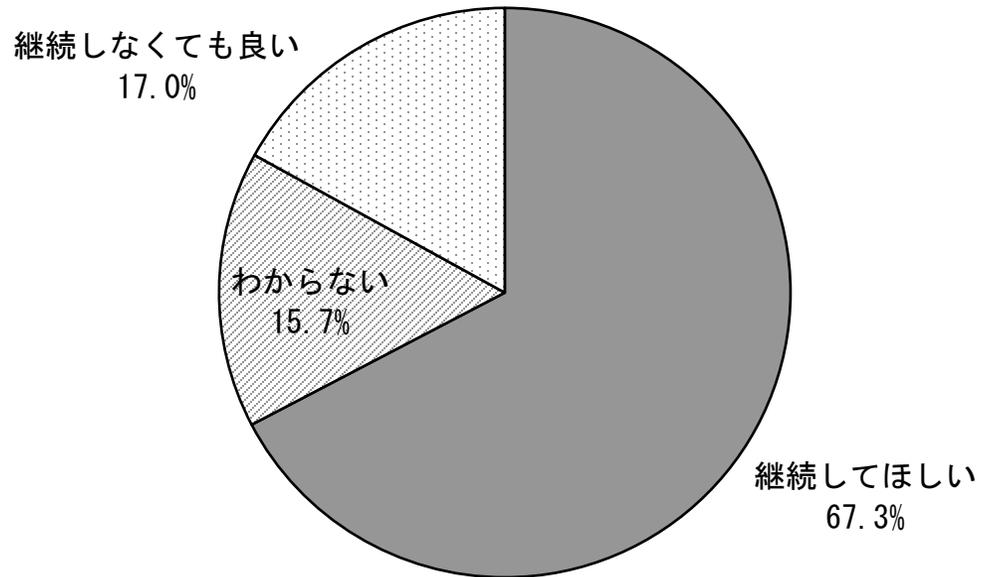


# アンケート調査の結果概要

## 問7. 無料乗車券の配布希望

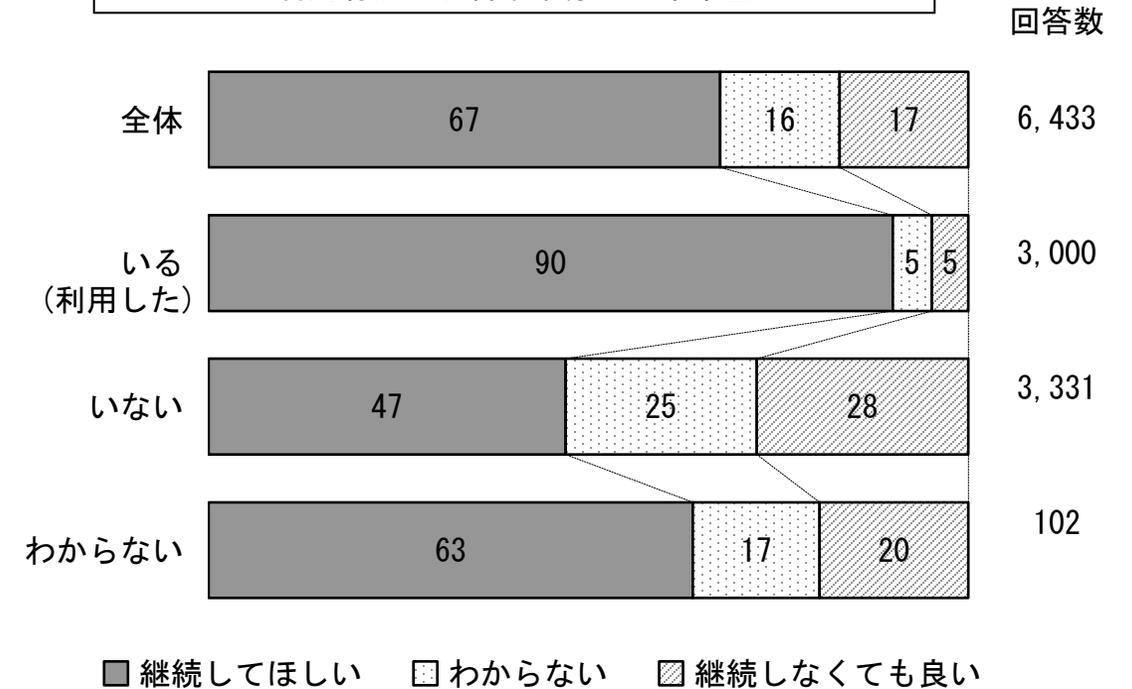
「継続してほしい」が67.3%と最も多く、「継続しなくても良い」が17.0%。

無料乗車券の配布希望



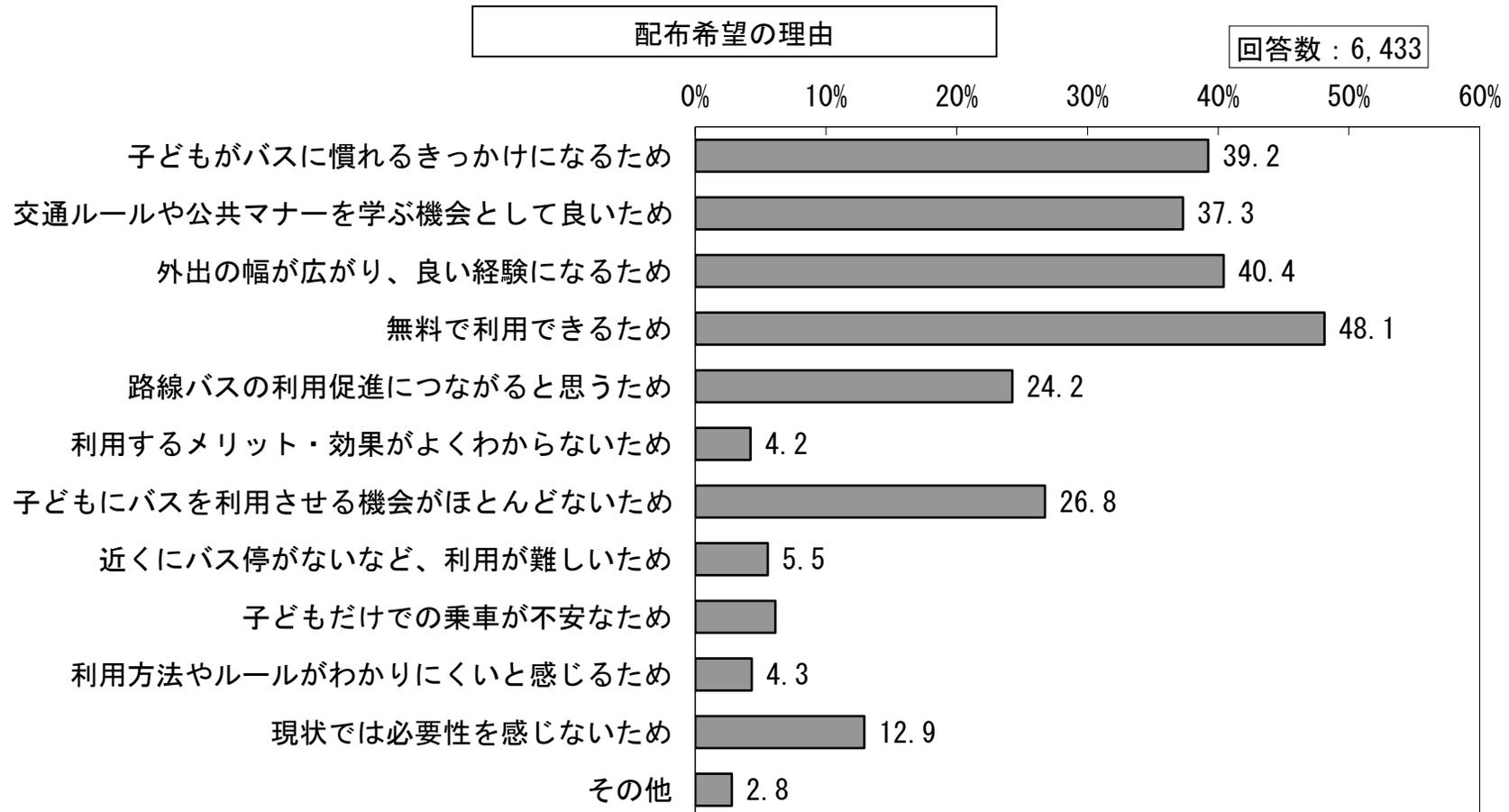
回答数 : 6,433

利用有無 × 無料乗車券の配布希望



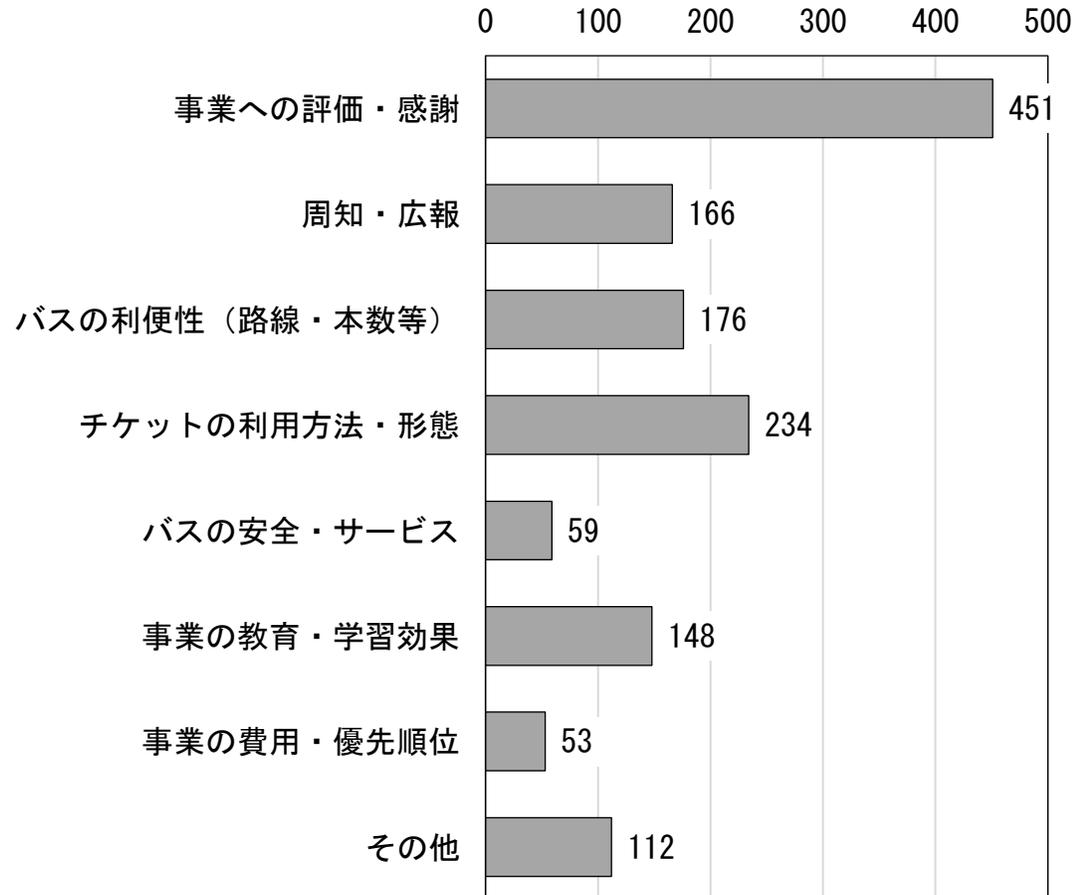
## 問8. 配布希望の理由

「無料で利用できるため」が最も多く48.1%。次いで「外出の幅が広がり、良い経験になるため」が40.4%、「子どもがバスに慣れるきっかけになるため」が39.2%。



## 問9. 事業へのご意見

「事業への評価・感謝」が最も多く、次いで「チケットの利用方法・形態」「バスの利便性（経路・本数等）」  
「周知・広報」に関する意見が多くなっている。



### 周知・広報

- ・リマインドのメールがほしい
- ・大人でも路線バスの経路をよく知らない。無料チケットより、路線図などを配布されたら便利
- ・親に知らせてくれないと子供が親に渡さないので存在を知らなかった

### バスの利便性

- ・バス停が近くにない/頻度が低い

### チケットの利用方法・形態

- ・使用期限を延ばしてほしい
- ・チケットを電子化してほしい
- ・利用エリアを広げてほしい

### バスの安全・サービス

- ・運転士さんが丁寧に接して下さり感謝
- ・運転手さんが認識しておらず下車するとき不正ではないと説明するのに時間を要した

### 事業の教育・学習効果

- ・練習後は1人で乗車することも増えました
- ・移動手段の選択肢が広がった

### 事業の費用・優先順位

- ・希望者のみ配布

## きっかけづくりとしての効果

保護者アンケートでは利用者の約7割が意識・行動面の  
変化を実感しています。

No	カテゴリー名	回答数	%
1	バスに対する抵抗感が減った	618	20.6
2	乗車マナーを学ぶきっかけになった	1,269	42.3
3	バスを利用する機会が増えた	1,132	37.7
4	特に変化はない	780	26.0
5	その他	57	1.9
	全体	3,000	100.0

変化有

※複数回答の設問

## 無料乗車券配布チラシの例（令和7年度・中学生用）

### 吹田市内のバスに乗ってみよう ～中学生バス無料乗車券～

バスは、お金（運賃）を支払えば誰でも利用できる乗り物です。  
このような乗り物を「公共交通」と言います。  
「公共」とは、「みんなの」という意味です。  
みんなが気持ちよく快適に利用できるよう、ルールやマナーは守りましょう。

人口の減少やマイカーの普及などにより、バスを使う人は減っています。  
バスは、みなさんが利用するときに支払ってくれたお金で、  
燃料や新しい車両を買ったり、運転士さんのお給料を払ったりしています。  
使う人が減るとそのお金が払えなくなり、バスを走らせられなくなってしまいます。  
「使う人が少ないならば、バスは必要ないのでは？」と思うかもしれません。  
しかし、みなさんのような子ども、お年寄り、身体の不自由な方など、自分で車や  
自転車を運転できない人、長い距離を歩くことができない人が移動・外出するためには、  
バスはなくてはならないものです。

バスには様々なメリット（長所）があります。

- 「人」にやさしい  
・誰でも簡単に利用でき、移動することができます。  
・バス停まで歩く必要がありますが、歩くことで健康を維持できます。  
・車を運転しないので、交通事故を起こすことがありません。
- 「まち」にやさしい  
バスは、一度に多くの人を乗せることができます（最大80人程度）。  
これにより、一人ひとりが車に乗った場合と比較して  
車の台数が減るので…  
・地球温暖化や大気汚染の原因となる排気ガスが減る！  
・渋滞が減って移動がスムーズに！

みんなのため、自分たちのためにバスに乗ろう！

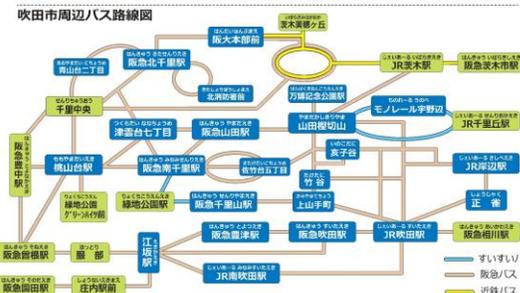
無料乗車券は、写真のバスで使うことができます（使える場所は、裏面をご覧ください）



### 中学生バス無料乗車券について

- ①左下の水色の券を切り取って、アンケートに記入する  
アンケートの内容:最寄り（自分の家に最も近い）停留所、通っている学校の名前、学年
- ②バスから降りるとき、運転士に券を見せ、運賃箱に入れる

- ・バスに乗ること、行き先を保護者に伝えましょう
- ・発車予定時刻までにバス停に行き、バスを待ちましょう
- ・安全のため、イスに座るかすり革や手すりを持ちましょう
- ・バスの中では静かに過ごしましょう
- ・危ないので、バスのすぐ前や後ろを横断することはやめましょう



お問合せ先  
吹田市 土木部 総務交通室 交通担当  
〒565-0855  
大阪府吹田市市役所1丁目6番3号  
（総合防災センター（DRC Suita）7階）  
電話:06-6155-3531

乗車券を利用した児童・生徒の保護者の7割は意識・行動面の変化を実感しており、路線バス利用のきっかけづくり・路線バスの将来需要拡大として一定の効果があったと考えます。  
また、本アンケートの実施により、児童保護者に対し無料乗車券の周知を行うことができたため、今後のさらなる事業の推進が見込まれます。